



しゅ よう 乳腺腫瘍って?

乳腺と言われる左右の乳頭に沿って存在する乳汁を分泌する分泌組織に腫瘍ができる病気。

乳腺腫瘍を発症するのはほとんどがメスであり、乳腺にできる腫瘍の8割以上が悪性とされています。発症初期に米粒のような小さなしこりができ、徐々にしこりが大きくなったり、複数できたりすることもあります。また、リンパ節や肺などへの転移の可能性が高いことも特徴です。

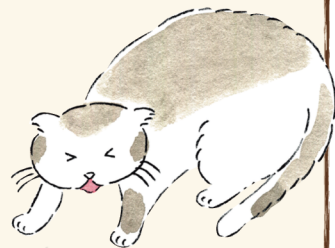
主な原因

女性ホルモンやその他のホルモン、遺伝的体質などの影響も。

乳腺腫瘍の発生には、性周期に伴う性ホルモンの変動が乳腺に密接に関わっていて、とくに卵巣から分泌されるエストロゲンが、乳腺腫瘍の発生を促進するといわれています。犬と違って猫の場合、不妊手術を行っていても乳腺腫瘍が発生することがあります。また、男の子の猫も、まれに乳腺腫瘍になることがあるので注意が必要です。

症状

乳腺組織に「しこり」ができます。胸や脇の下、下腹部、内股までの乳腺に複数ヶ所できる場合もあり、悪性腫瘍の場合は腫瘍の増殖とともに皮膚が破け出血や壊死を起こしたりします。また、リンパ節や肺や肝臓などの他の組織に腫瘍が転移する場合があります。



治療法

早期発見、早期摘出が重要。

良性腫瘍では、早期摘出で経過が良好な場合が多いですが、悪性腫瘍では、摘出した後も再発や他の組織に転移をすることがあり、経過が悪い場合もあります。手術で摘出する治療以外に、抗がん剤治療や放射線治療を行なうこともあり、またそれらの治療を手術と組み合わせて行なう場合もあります。



予防法

早期の不妊手術が発症の予防につながります。

1歳以下での不妊手術によって80~90%発生率を低下させる事がわかっており、早期の不妊手術が発症の予防につながる可能性があります。ただ、避妊手術をしても発症することがあるため、お腹をなでるなどのスキンシップが早期発見につながります。スキンシップの際には、脇の下からおっぱいに沿って触り、しこりがないかチェックしてみましょう。「しこり」がみられた場合は、早めに動物病院に相談しましょう。



雑誌「ねこのきもち」では、健康情報や困りごとなど飼い主さんの「知りたい!」を解決! ●こちらは、掲載した記事を再編集したものです。

アニコム損保ご契約者が
マイページから定期購読を申込みと

2号 (2ヶ月分) **無料!!**

